

# 小平市 農業委員会だより



発行:小平市農業委員会 〒187-8701 小平市小川町2丁目1333番地  
電話:042-346-9533(直通) FAX:042-346-9575

令和5年4月(2023年)

第27号

## 特定生産緑地制度への 移行について

平成30年4月1日に特定生産緑地制度が施行され、小平市をはじめとする都市農地においては、これまで農業委員会の最重要活動として特定生産緑地制度の周知と指定の促進に努めてまいりました。

その結果として、平成4年に指定された生産緑地のうち、97%以上が特定生産緑地に指定され、都内平均を上回る指定率となりました。

小平市農業委員会では、今後も特定生産緑地を含む市内農地の有効活用を推進し、都市農業・農地の利用促進を図る取組を実施いたします。

市内農家の皆様におかれましても、引き続き、所有する農地の管理・利用促進をよろしくお願いいたします。



申出基準日到来生産緑地（令和4年度指定分）の特定生産緑地指定状況  
（令和4年11月末日時点）※（一社）東京都農業会議調べ

	申出基準日到来 生産緑地面積	特定生産緑地指定面積	指定率
小平市	141.03 ha	137.08 ha	97.2 %
東京都合計	2,390.90 ha	2,242.51 ha	93.8 %

令和4年11月12日・13日

# 小平市 産業まつりが 開催されました



↑農産物の宝船

令和4年11月12日（土）及び13日（日）に小平市産業まつりが開催されました。

3年ぶりの開催となる今回は、以前までの福社会館前の市民広場から会場を移して、市役所本庁舎立体駐車場およびJA東京むさし小平ファーマーズ・マーケットの駐車場にて行われました。

当日は各種団体による模擬店、野菜・花・植木の即売など、催し物が盛りだくさんで、2日間の来場者数は、約2万と多くの方にご来場いただき、大変賑わいました。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントの開催が縮小・中止され、市内産業をPRする場もその機会を失われておりました。

そのような中で3年ぶりの開催となった今回、農産物品評会では特に優れた品物が多く、生産者の皆様の高い技術を改めて感じ、賑わう模擬店の様子で市内商工業者の集客力を再認識させていただき、市民の皆様の産業まつりに対する期待もまた同時に感じる事ができました。

この産業まつりを通して、市民の皆様は、また一段と都市農業への理解が深まったことと思います。実行委員会そして関係者の皆様に深く感謝し御礼申し上げます。



# 令和4年度 顕彰事業

令和4年度も、小平地区では数多くの農家の皆様が栄えある賞を受賞されました。受賞農家の皆様、大変おめでとうございます。



令和4年度小平市農業者顕彰受賞伝達式にて  
令和5年3月23日（木）JA東京むさし小平ファーマーズ・マーケット

## 東京都農業会議

### 第62回企業的農業経営顕彰

東京都知事賞・東京都農業会議会長賞  
川里 章 様

東京都知事賞・東京都農業会議会長賞  
高橋 晶夫 様・高橋 浩子 様

全国農業会議所会長賞・東京都農業会議会長賞  
岡田 雅彦 様・岡田 三知子 様

東京都農業会議会長賞  
阿部 秀則 様・阿部 啓子 様

### 第42回農業後継者顕彰

東京都農業会議会長賞  
川島 拓也 様

東京都農業会議会長賞  
高橋 義行 様・高橋 智子 様

### 令和4年度農業功労者表彰

大谷 貞子 様

## 北多摩地区農業委員会連合会

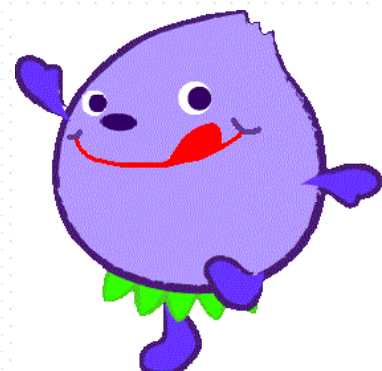
### 優秀農業経営者表彰

比留間 光雄 様

## 公益財団法人東京都農林水産振興財団

### 新規就業奨励賞

大谷 明雄 様 島田 義之 様  
中村 浩平 様 山田 茂幸 様



# 24期農業委員会をふりかえって

## 会長 竹内博行

私達24期農業委員は、本年7月19日をもって任期満了となります。今期の最大の課題は、農地の特定生産緑地制度への移行でありました。所有者はもちろん関係各位のご協力により、97%以上の指定率を達成することが出来ました。相続・後継者問題で減少の一途に一定の歯止めが出来たと考えます。改めて皆様へ感謝を申し上げます。折角社会の中で農地の存在が認知されたので、適正な肥培管理に務め、少しでも多くの農地を次の世代に引き継ぐべく、皆様と共に努力して行く決意であります。

## 会長職務代理 小林幸夫

特定生産緑地制度への移行も無事終わり、市内では、97%以上の生産緑地が指定されました。しかし、農家の高齢化や後継者不足等により、将来に渡って不安があるのではないのでしょうか。一つの方法として生産緑地の貸借があります。市内でも徐々に増えていますが、まだまだ借り手が少なく、さらなる周知と活用が必要です。

今後も多面的機能を持つ都市農地を残すためにも、いくつかの課題がありますが、行政、JA、農業委員会、農業者が協力して、知恵を出す必要があると思います。

### 農業者年金に加入しませんか？

農業者年金は、自ら積み立てた保険料とその運用益で将来の年金額が決まる「積立方式」の公的年金です。支払う保険料の全額が社会保険料控除の対象で、運用益も非課税です。  
お問い合わせは農業委員会まで

### 全国農業新聞を購読しませんか？

全国農業新聞は、農業委員会ネットワーク機構である「全国農業会議所」が発行する週刊紙です。最新の農業情勢のほか、地域の話題やイベント情報も掲載されています。  
■月4回 金曜日発行  
■購読料 700円(送料、税込み)  
お問い合わせは農業委員会まで

### NOSAI東京収入保険に加入しませんか？

収入保険は、農作物の販売収入の減少を補ってんします。  
●お問い合わせ  
東京都農業共済組合  
(NOSAI東京)  
042-381-7111

## 編集後記

昨年の事になりますが、11月に立川の農林総合研究センターへ視察研修に行きました。そこでは、これからの東京の農業を見据えた試験研究や技術開発が行われていました。ハウスでは根域制限栽培でブドウや桃などが生育され、別の場所では無花粉の杉の苗が育成されていたりと多種多様な研究を見ることができました。楽しそうに作業する研究生の姿もあり、有意義な半日でした。(宮奈)

特定生産緑地の実績記事ご覧頂けましたでしょうか。当市は対象農家の方を始め関係者各位のご理解ご協力を得て97%以上の指定率となり農業委員一同ホッとしているところです。また、生産緑地の貸借についても当市は実績が多く、この制度を上手に活用した新規就農者がNHK『クローズアップ現代』に都市農業の在り方として紹介され話題となりました。こうしたことは当市に農地がより多く残ることを意味し、住み良い街づくりに大きな役割を果たすことになると思います。(竹川)

【編集委員】 井上 幸雄 竹川 敏雄 當間 隆 宮奈 初子